

2016年度 一般社団法人西部日本ボールルームダンス連盟競技規定

2015/10/15 交付

○全ての西部日本ボールルームダンス連盟所属選手は以下のクラスのいずれかに属する。

プロフェッショナル A・B・C・D・E級 の5段階

アマチュア A・B・C・D・E・F級 の6段階、ただしEF級は混合戦とする

尚、スタンダード・ラテンアメリカンの2セクションにおいて、それぞれ独立した級を所持するものとする。

リーダー、パートナーは各一名ずつとし、異なるリーダー、パートナーで競技会に出場するには事前に変更届の提出が必要となる。締切が過ぎた競技会への変更は不可とする。

○当団体公認競技会の採点方法はスケーティングシステムにて執り行う

-アマチュア規定-

1. 教師資格を保持している者及びプロフェッショナルである事を声明した者
2. ダンスを踊ったり指導したりすることで、必要経費以上の報酬や出演料を得ている者
3. アマチュア選手として身分を失った選手が、その身分の回復を請願中にあるとき

上記3項目に当てはまるものはアマチュア選手として当連盟主催競技会に出場することはできない

また、アマチュア選手が報酬を得てデモンストレーションに出演する時は、出演願いを本連盟に提出しなければならない。その場合も必要経費以上に報酬を受けてはならない

○昇級規定

- ・ B級→A級 年間で決勝に4回入賞且つ3位以内に一度入賞した時、翌年度より昇級
- ・ C級→B級 年間で決勝に4回入賞した時、翌年度より昇級
- ・ D級→C級 年間で決勝に4回入賞した時、翌年度より昇級
- ・ E級→D級 年間で決勝に4回入賞した時、翌年度より昇級

※すべてのクラスにおいて8人決勝も入賞扱いとする

※B級～E級まではクラス戦のエントリー組数が100組以上の場合、

準決勝入賞も決勝入賞扱いとする（但しオープン戦は対象外）

※昇級規定は降級規定をクリアしていることを適応の前提とする

○即日昇級規定

・ C級

エントリー組数スタンダード 40組、ラテン 10組につき1組即日昇級

さらにスタンダード 30組、ラテンは10組増える毎に1組ずつ増加、但し6組を限度とする

例：スタンダード 40組→1組、70組→2組、100組→3組、130組→4組・・・
ラテンアメリカン 10組→1組、20組→2組、30組→3組、40組→4組・・・

・ D～E級まで

エントリー組数スタンダード 30組、ラテン 10組につき1組即日昇級

さらにスタンダード 20組、ラテンは10組増える毎に1組ずつ増加、但し6組を限度とする

例：スタンダード 30組→1組、50組→2組、70組→3組、90組→4組・・・
ラテンアメリカン 10組→1組、20組→2組、30組→3組、40組→4組・・・

・ F級

アマチュア EF級混合戦において第一次予選を突破すること

- ・タイトル戦に下位級の選手が決勝（6位まで）に残った時 または 全日本クラス競技会で準決勝に残った時
B級・C級→A級に昇級
D級・E級→B級に昇級
 - ・タイトル戦で準決勝に残った時
C級→B級に昇級
D級・E級→C級に昇級
- ※但し、A級選手の出場が6組に満たない場合、決勝進出者のみ1階級昇級
- ※タイトル戦とはスクリヴナー杯・前期、後期西部日本・大阪インター・レアード杯を指す

○ポイント制即日昇級規定

アマチュアB級～E級において、競技結果に応じてスタンダード、ラテンアメリカンそれぞれにポイントを付与する。取得ポイントが合計20点に達した競技会開催日の翌々月より即日昇級とし、一つ上のクラスに参加できるものとする。取得ポイントは以下とする

- ・1位入賞10点
- ・2位入賞8点
- ・3位入賞6点
- ・4位入賞4点
- ・5位入賞2点
- ・6位入賞～準決勝入賞1点

※即日昇級した選手は、その年は出場回数・成績による規定を問わず降級しない

（即日昇級規定注釈）昇級時期および権利喪失について

E級以上の場合、翌々月より昇級後の級で出場可。出場回数・成績による規定に関係なく昇級した年は降級しない。

F級の場合、翌々月よりE級として出場可。その年内にE級としての出場がない場合、昇級権利を喪失し翌年はF級に戻るものとする。但し、9月以降の競技会にて即日昇級した場合は、出場機会の回数を考慮し年内に出場がなくとも翌年よりE級にて出場可とする。8月、9月の競技会にわたって即日対象となった場合、上記規定は最初に昇級した8月の即日昇級の権利を優先とする。

全ての級において、翌々月に昇級後の級が有効となるまでは昇級前の級で出場が可能とする
また、昇級時期が2月からとなる場合、（年度を越える為）特例として1月より昇級を認める。

○降級規定

1.成績の項

- ・A級
年間を通じて準決勝に一度も入賞しなかった時
- ・B級
年間を通じて最終予選に一度も進出しなかった時
- ・C級
年間を通じて最終予選の一つ前に一度も進出しなかった時
- ・D級、E級およびF級
クラス維持に際し成績は問わない

※上記成績は、西部日本ボールルームダンス連盟公認競技会において収めた場合のみ有効とする

※準決勝以下各ラウンドともに組数による規定は設定しない

2.回数の項

- ・A級からD級
年間を通じて4大会競技会に参加しなかった時
- ・E級
年間を通じて競技会に一度も出場しなかった時

※全ての西部日本ボールルームダンス連盟公認競技会への出場を出場回数として数える

※B級、C級選手は西部管轄内の当連盟公認競技大会の自己級戦にすべて出場した場合は降級を免除する

※西部日本ボールルームダンス連盟主催タイトル戦においてB級は48位以内入賞、

C級は第一予選突破を条件とし降級規定、成績の項をクリアしたものとする

※渡航の手続き完了の選手や出産、6ヶ月以上の入院（診断書付）の場合は考慮する

※西部日本ボールルームダンス連盟主催のタイトル戦優勝者についてはこの限りではない

ただしカップル解消の際にはその権利を失う

○他広域加盟ボールルームダンス連盟からの移籍登録規定

所属していた連盟発行の級証明を提出することにより、当連盟においても同じ級にて登録可能

○学生新規登録規定

当連盟審査員（1人でも可）の学生全日本戦最終予選進出者→C級より登録

その他の学生オープン戦準決勝進出者→C級より登録

同最終予選進出者→D級より登録

それ以外の選手はF級より登録

※登録に際し学連委員長よりの登録申請書が必要

※上記は種目総合による成績とする（単科のみでは不可）

※上記成績は成績取得競技会より1年を規定適応期限とする

○プロ転向規定

アマA級（タイトル戦入賞者）→プロB級

その他のアマA級およびB級（決勝入賞者）→プロC級

上記以外のアマ選手はプロE級から出場

※成績はリーダーが取得したものを採用する

○服装規定

スタンダード男子

・F級：平服自由（燕尾服以外は全て可）

例：スポーツシャツ、ノーネクタイ、立カラー、蝶タイ、タキシード

但しランニングシャツ又は類似についてはチェッカーが適宜指導する

・E級：正装 又は 平服（上着、ネクタイ着用）

・D级以上：正装

※F級・E級共に学生服可

ラテンアメリカン男子 及び スタンダード・ラテンアメリカン女子

・クラスを問わず自由

○その他の規定

・エントリー組数が6組に満たない競技の場合、その競技を中止する場合がある
（但し、ジュニア・ジュブナイルは除く）

・オープン種目はE級以上の登録選手から出場可能とする（F級登録選手は出場不可）

・ベーシック競技にて、チェッカーから二度違反を指摘された場合、得点に関わらず次のラウンドには進出できない。

また、決勝にて違反を犯した場合、成績に関わらず最下位とする

-スーパーシニア・グランドシニア・シニア規定-

○参加資格

スーパーシニア競技会：リーダーの年齢が 65 歳以上

グランドシニア競技会：リーダーの年齢が 55 歳以上

シニア競技会：リーダー、パートナーの年齢が共に 35 歳以上

尚、登録料金は有料登録選手（自己級 E 級以上）は無料とし、無料登録会員は別途発生するものとする

新規登録の際には資格を証明する年齢確認が取れる身分証のコピーの提出を必要とする

また、競技会開催当日の年齢を参加資格とする

○級種別

スーパーシニア、グランドシニア、シニア共に、自己級と同じ級とする

○競技規定

当連盟公認競技会においてスーパーシニア、グランドシニア戦で決勝に入賞した場合、

自己級降級規定において準決勝入賞成績を収めたことと同等と扱う

-プロフェッショナル規定-

○昇級規定

規定得点（年間で 26 点より）

1 位：10 点

2 位：8 点

3 位：6 点

4 位：4 点

5 位：2 点

6 位：1 点

・ B 級→A 級に昇級時

規定得点の取得と 2 位以内に 1 回以上入賞する事

なお、競技の回数が 6 回以上のとき規定得点がさらに 3 点ずつ加算される

例：6 回→29 点 7 回→32 点 8 回→35 点 9 回→38 点 ……

・ C 級→B 級に昇級時

規定得点の取得と 3 位以内に 1 回以上入賞する事

なお、競技の回数が 6 回以上のとき規定得点がさらに 1 点ずつ加算される

例：6 回→27 点 7 回→28 点 8 回→29 点 9 回→30 点 ……

・ D 級→C 級および E 級→D 級に昇級時

規定得点の取得

なお、競技の回数が 6 回以上のとき規定得点がさらに 1 点ずつ加算される

例：6 回→27 点 7 回→28 点 8 回→29 点 9 回→30 点 ……

・ 西部日本ボールルームダンス連盟主催のタイトル戦

（スクリヴナー杯・西部日本・大阪インター・レアード杯）に下位級の選手が決勝に残ったとき（6 位まで）

B 級及び C 級→A 級に

D 級及び E 級→B 級に

・ 準決勝に残ったとき（全員）

C、D 及び E 級は一階級昇級

※ただし降級規定をクリアしていることを昇級の条件とする

※全クラスにおいて年間に必要な昇級点数は 50 点を最大とする

○降級規定

1.成績の項

A 級

- ・年間を通じて自己級の準決勝に 2 回入賞しなかったとき
- ・全日本クラス競技会は 48 位入賞で自己級の準決勝に 1 回入賞とする
- ・下記成績を収めた場合は自己級の準決勝 2 回入賞に相当するものとする

当連盟公認連盟主催オープン戦、クラス戦競技会	決勝進出
西部日本ボールルームダンス連盟主催タイトル戦	準決勝進出
当連盟公認全日本クラス競技会	準々決勝進出

※但し、競技会当日の出場組数により準決勝からラウンドが始まる場合、準決勝進出 1 回とは認めない。
決勝進出のみ有効とする。

また、A 級の出場組数が 12 組に満たない場合、3 位以上入賞を決勝進出とする。

※他広域加盟団体局主催全日本クラス戦においては A 級が 12 組以上出場を条件とする。

B 級

- ・決勝に一度、もしくは準決勝に二度入賞しなかったとき

C 級

- ・準決勝に一度も入賞しなかったとき

D 級

- ・降級に際し成績を問わない

2.回数の項

A 級から D 級

西部連盟公認競技会に 7 回参加をクラス維持の条件とする

ただし 5 回を上限とし、義務の有る競技会の半数以上は西部管内の競技会に参加することとする

※当連盟主催タイトル戦および加盟連盟主催オープン戦は出場回数に含める

(渡航、出産の手続きを完了した選手は省く)

- ・オープン戦と自己級戦の競技が同日に行われる場合、必ず自己級戦に参加した上でオープン戦に出場のこと
- ・新規登録で年度途中から出場の場合、登録時点からその年末までの義務のある競技会の過半数が対象となる
- ・統一全日本戦に関しては出場回数のみ成績として考慮する

※当連盟主催のタイトル戦優勝組については上記 2 項目に関係なく降級対象としない

※産休申請を完了したものは提出年と翌年の合計 2 年間に於いて上記 2 項目を修めるものとする

※公傷による降級免除に関しては診断書提出の上、程度および期間に関しては個別に検討することとする

○上位級への挑戦

1 つ上のクラスへの挑戦を可能とする。ただし同日開催される自己級戦への参加を条件とする。

年間を通して上位の昇級成績も取得した場合、2 階級昇級とする

○全日本クラス競技会競技結果における特別昇級について

B 級以下は、全日本クラス競技会にて準決勝 1 回進出、または準々決勝 3 回進出で翌年 A 級への昇級とする。

○その他の規定

ベーシック競技にてチェッカーから二度違反を指摘された場合、得点に関わらず次のラウンドには進出できない。

また、決勝にて違反を犯した場合、成績に関わらず最下位とする

-全国大会への選手選考基準-

○基準

1.全国ランキング 96 位まで

2.選考する日より一番近いタイトル戦の決勝 又は 準決勝を優先とする (クラスに関係なし)

タイトル戦：スクリヴナー杯・前期、後期西部日本・大阪インター・レアード杯

3.次は順次近いタイトル戦の決勝者 (クラスに関係なし)

4.順次近い当連盟加盟連盟主催コンペの決勝者 (A 級のみ)

- 5.順次近いタイトル戦の準決勝者（クラスに関係なし）
- 6.順次近い加盟連盟主催コンペの準決勝者（A級のみ）
- 7.残っているA級選手より（1.タイトル戦の最終予選 2.加盟連盟主催コンペの最終予選 3.出場回数等）
- 8.それでも満たない場合B級の得点数上位より選考する

※一年前の同大会の権利は消滅する

※選考対象競技会申込締切日直近の大会までを選考基準の対象とする

※選抜される権利を有する選手が何らかの事情でパートナー変更の場合はその権利が白紙に戻され新たに選考し直される

※項目3～6までは過去一年をさかのぼる

-ベーシックフィガー・ルーティン-

○スタンダード

- ・JBDF 発行ボールルームダンステクニック書を全て基準とする
- ・チャート部分、先行、続行及発展に記載されているフィガー及ルーティンは使用可
- ・フィガーの最終歩を変化させて使用する事は可
- ・フィガーの途中で他のフィガーに接続しての使用は不可
- ・註) の部分は使用可

○ラテンアメリカン

- ・JBDF 発行ラテンアメリカン書を全て基準とする
- ・チャート及先行、続行及発展に記載されているフィガー及ルーティンは使用可
- ・フィガーの最終歩を変化させて使用する事は可
- ・フィガーの途中で他のフィガーに接続しての使用は不可
- ・註) の部分は使用可
- ・アームについては組合った腕、手以外のフリーアームの高さは自由（ラテンアメリカン書厳守）

-その他記載なき事項について-

上記規定に記載なき事項に関しては随時公正に運営委員会にて検討し、規定に加筆するものとする

2016年西部日本ボールルームダンス連盟プロ競技規定改訂

2015年12月3日に開催された西部日本ボールルームダンス連盟と西部プロ選手会会合において話し合われた、2016年の西部日本ボールルームダンス連盟競技規定について、当規定を以下改訂、交付いたします。尚、施行は2016年1月1日とします。

○プロ昇級点数について

- ・ 2015年の規定を元に加点した結果、昇級点数が50点を超える場合、クラスに問わず最大点数を50点とする。
(例 2015年の場合、B級昇級点 53点→50点)

○上位級挑戦について

- ・ 1クラス上のクラス戦に参加可能。上位での昇級点も併せて取得した場合、2階級昇級とする。但し、同日に自己級戦が開催された場合、自己級戦に参加することを上位級挑戦の条件とする。

○全日本クラス競技会競技結果における特別昇級について

- ・ B級以下は、全日本クラス競技会にて準決勝1回進出で翌年はA級への昇級とする。
- ・ 同じくB級以下は準々決勝3回進出で翌年A級への昇級とする。

○公傷による降級免除について

- ・ 公傷が発生した際は、診断書提出の上、降級免除対象とする。
期間については公傷の程度を加味したうえで運営委員会にて検討する。
但し、公傷は競技会当日、フロア上での事故に限る

上記4点を交付済みの2016年競技規定に加筆するものとする。

2015年12月10日
西部日本ボールルームダンス連盟
競技部長 森 修一郎

(プロフェッショナル・アマチュア規定細則加筆)

○産休制度について

- ・ 産休は母子手帳発行日より 1 年間とする。その間、競技には参加できない。
- ・ 届出があった年とその翌年で 1 年間の成績を収めるものとする。
- ・ また日程変更などで競技日程が変更された場合、2 度に渡り同名の競技会には参加できないものとする。
- ・ 期間をすぎれば自動的に復帰するものとする。

(プロフェッショナル規定細則加筆および変更)

○降級規定成績の項

- ・ 各クラスにおいて自己クラスエントリーが 12 組に満たない場合、3 位以内入賞を決勝進出扱いとする。また、同様に 4 位以下決勝入賞者は準決勝入賞と同等の成績を収めたものとする。また、決勝戦に進出できなかった組は予選敗退と同じ扱いとする。
(例：A 級戦において、参加 A 級 11 組、B 級上位挑戦 5 組の場合、
1 位～3 位に入賞した A 級カップルは決勝入賞の成績を収めたものとする
4 位以下決勝入賞した A 級カップルは準決勝進出の成績を収めたものとする
準決勝で敗退した A 級カップルは予選敗退扱いとする)

(アマチュア規定細則加筆および変更)

○アマチュア服装規定について

- ・ アマチュア F 級スタンダードの服装規定を以下と変更する
平服自由 (燕尾可)

○怪我・病気による降級免除について

- ・ 診断書提出により競技部にて検討する。
ただし診断書の提出有効期限は診断書作成日より一ヶ月とする。

尚、上記規定細則ならびに変更は 2016 年度競技規定に適用するものとする。